

まる まる
○○上伊那

令和3年6月29日

育ちの樹（き） ～ コロナ禍で改めて感じる“つながり”力 ～

コロナとの付き合いも長くなってきました。そんな中で、“つながり”力について、改めて感じていることがあります。

まず、話の前提として、伊那養護学校の目指す子どもの姿を紹介します。

“自分から 自分で 精いっぱい そして いっしょに”です。

これを育つ樹に見立て、次のようにイメージしています。

“自分から”は強く張る根、“一緒に”は晴れ・嵐など様々な環境で生き抜くことになぞらえ、この流れを幹としてすえます。

“自分で” “精一杯”は、可能性の枝葉・花実です。

時代の要請によって変わり、一人ひとりに応じて様々に広がる枝ぶり・実りとしてすえ、生き生きと育つ樹の姿としてイメージしています。



次に、改めて感じる“つながり”力。それは、コロナ禍の厳しい条件の中でも工夫してつながっている、まさに今の状態。晴れ・嵐など様々な環境で生き抜くイメージと重なります。また、Web等の新たなやり方でのつながりは、広がる枝ぶり・実りとして、勢いがつきはじめていると言えるでしょう。

一方、改めて必要性を感じるのは、仲間と直接かかわり合う“つながり”力です。集団的な学びから得られる満足感は、新たな学びへの土台となります。今、この部分が少し足りていないと感じます。強く張ってほしい根が、少し弱々しい。枝葉は茂るけれど、根が弱ければ…ぐらぐらと不安定になってしまいます。

こんなふうにとらえると、精一杯頑張っているその裏には、不安もある…と感じます。改めて、互いを気にかけて、ねぎらうかかわりを大切にしたいと考える今日この頃です。

かみとくれん会長 齋藤 良直（伊那養護学校）